

人も地球も健康に

Yakult

Yakult

株式会社ヤクルト本社

第71期 中間期 株主通信

2022年4月1日 ~ 2022年9月30日

掲載内容

- 01 株主の皆さまへ／連結業績ハイライト
- 03 セグメント別業績概況
- 07 第2四半期連結財務諸表等
- 09 特集1 誌上工場見学
- 11 特集2 健康経営の取り組み
- 13 会社情報

「Newヤクルト」って
どうやって
つくられるの？



ごあいさつ



代表取締役社長

成田 裕

平素は格別のご高配を賜り、あつく御礼申し上げます。

ここに、2022年4月1日から2022年9月30日までの経営成績につきまして、連結の業績を中心にご報告申し上げます。

2022年12月

当第2四半期について

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済社会活動の正常化が進む中で、景気が持ち直していくことが期待されているものの、世界的な金融引締め等による景気の下振れリスクや、物価上昇による影響等に十分注意を要する状況にあります。

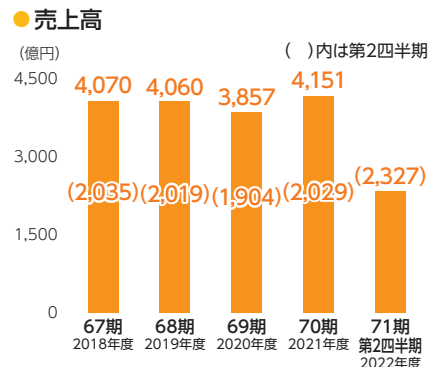
このような状況の中で、当社グループは、事業の根幹であるプロバイオティクスの啓発・普及活動を展開し、商品の優位性を訴求してきました。また、販売組織の拡充、新商品の研究開発や生産設備の更新に加え、国際事業や医薬品事業にも積極的に取り組み、業績の向上に努めました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は2,327億円(前年同期比14.7%増)となりました。利益面においては、営業利益は352億円(前年同期比26.9%増)、経常利益は419億円(前年同期比17.4%増)、親会社株主



私たちは、生命科学の追究を基盤として、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します。

連結業績 ハイライト



に帰属する四半期純利益は269億円(前年同期比5.2%増)となりました。

配当について

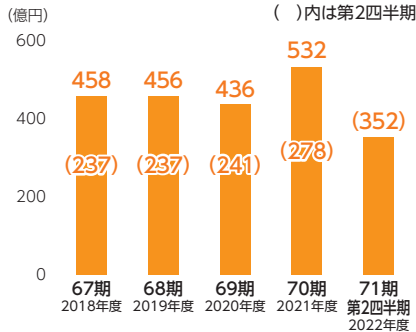
当社は、継続的な増配を目指すことを最優先とし、そのうえで、将来の事業拡大や収益向上を図るための資金需要および財政状況ならびに当期の業績などを総合的に勘案

して配当金額を決定しています。

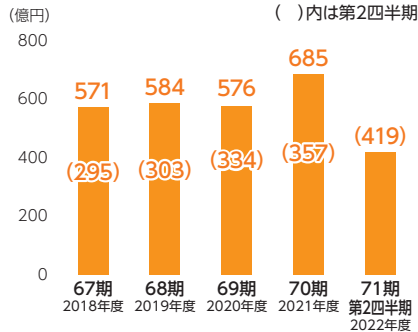
2023年3月期につきましては、配当予想を前期に比べて10円増配の年間82円とすることを公表しておりましたが、上記の基本方針のもと、株主の皆さまに対してより一層の利益還元を図るため、公表金額からさらに8円増配し、年間90円とすることといたしました。中間配当については45円となります。

	当第2四半期連結累計期間	通期の見通し
売上高	2,327 億円 (前年同期比 14.7% 増)	4,810 億円 (前期比 15.9% 増)
営業利益	352 億円 (前年同期比 26.9% 増)	640 億円 (前期比 20.3% 増)
経常利益	419 億円 (前年同期比 17.4% 増)	790 億円 (前期比 15.2% 増)
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	269 億円 (前年同期比 5.2% 増)	500 億円 (前期比 11.3% 増)

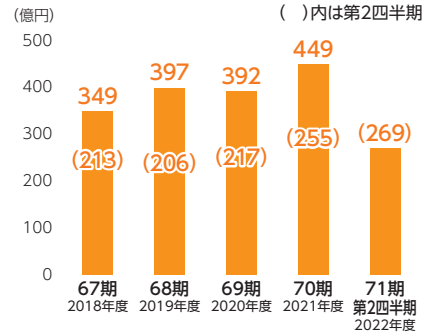
● 営業利益



● 経常利益



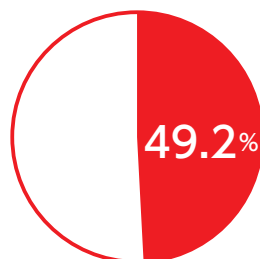
● 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



Financial Result by Segments

※セグメント別の売上高構成比は、セグメント間売上高の消去前金額に対する構成比です。

飲料および食品製造販売事業部門(日本)



売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高

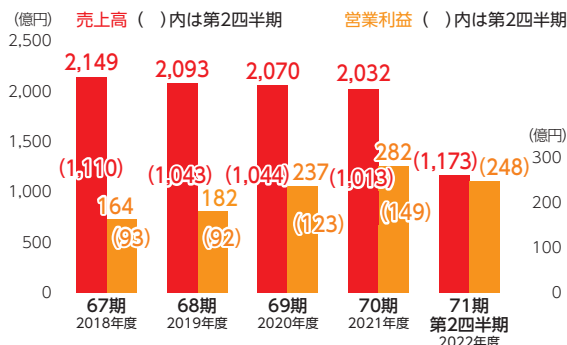
1,173 億円

(前年同期比: 15.8% ↑)

営業利益

248 億円

(前年同期比: 66.7% ↑)



乳製品につきましては、当社独自の「乳酸菌 シロタ株」や「ビフィズス菌 BY株」などの科学性を広く普及するため、新型コロナウイルス感染症の感染防止策を講じたうえで、地域に根ざした「価値普及」活動を積極的に展開しました。

宅配チャネルにおいては、乳製品乳酸菌飲料「Yakult(ヤクルト)1000」および「ヤクルト400」シリーズを中心に、エビデンスを活用し、既存のお客さまへの継続飲用を促進するとともに、新規のお客さまづくりに努めました。また、宅配組織の強化を図るため、ヤクルトレディが働きやすい環境の整備を進めるとともに、インターネットを活用した採用活動を実施しました。

店頭チャネルにおいては、乳製品乳酸菌飲料「Newヤクルト」シリーズについて、家族での飲用促進を目的とした期間限定

パッケージを導入するとともに、演出資材等を活用した視認性の高い売り場を展開し、売り上げの増大に努めました。

商品別では、「Yakult(ヤクルト)1000」および「Y1000」の品薄状態に対応するため、「Yakult(ヤクルト)1000」は9月から、「Y1000」は7月から、それぞれ生産体制を強化しました。また、「Y1000」については、年内のさらなる増強に向けて準備を進めています。そのほか、ハードタイプヨーグルト「ソフール」について、7月に期間限定アイテム「ソフール 白桃」を発売し、ブランドの活性化を図りました。

一方、清涼飲料につきましては、栄養ドリンク「タフマン」シリーズについて、消費者キャンペーンを実施し、売り上げの増大に努めました。

乳酸菌生まれのスキンケアシリーズ 「ラクトデュウ」から2品を発売

高保湿スキンケアシリーズである「ラクトデュウ」シリーズから、2022年11月に「ラクトデュウ S.E.ローション2」を新発売し、「ラクトデュウ S.E.ミルク」をリニューアル発売しました。新たにオリジナル保湿成分ビフィズス菌はっ酵エキス(大豆)を配合し、オリジナル保湿成分HBヒアルロン酸(持続型)を増量したことで、さらさらの肌が持続しエイジングサインにはたらきかけます。

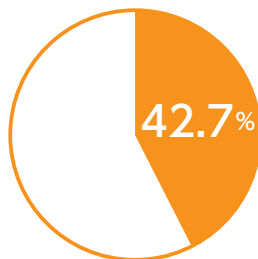


NEWS
&
TOPICS
2022

Yakult豆知識 ● その1

こども向け職業・社会体験施設「キッズニア東京」、「キッズニア甲子園」に次いで、2022年7月「キッズニア福岡」にプロバイオティクス研究パビリオンを出演しました。こども達が白衣を着て研究員になり、菌の観察・研究といった仕事を体験できます。

飲料および食品製造販売事業部門(海外)

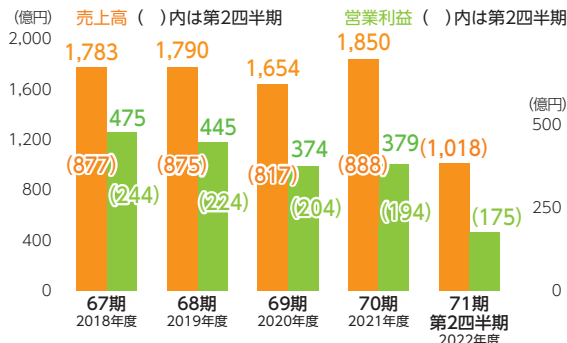


売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高
1,018 億円
(前年同期比: 14.6% ↑)

営業利益
175 億円
(前年同期比: 9.8% ↓)



米州地域

売上高 **303** 億円 (前年同期比: 32.8% ↑)

米州地域においては、ブラジル、メキシコおよび米国で乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などを製造、販売しています。

米国においては、広報活動等による販売支援を強化するとともに、新規取引先数の増大に努めた結果、販売実績は順調に推移しました。

アジア・オセアニア地域

売上高 **664** 億円 (前年同期比: 8.6% ↑)

アジア・オセアニア地域においては、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、マレーシア、ベトナム、インドおよび中国などで乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などを製造、販売し、アラブ首長国連邦(UAE)などでは「ヤクルト」などを輸入販売しています。なお、ミャンマーにおいては、政情等に鑑み、営業生産活動を一時的に見合わせています。

インドネシアにおいては、8月から店頭チャネルで「ヤクルト」10本パックの販売を開始し、売り上げの増大に努めました。

ベトナムにおいては、7月に宅配・店頭チャネル合同消費者キャンペーンなどの販売促進策を展開した結果、月間では過去最高の一日当たり平均販売本数となりました。

一方、中国においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴うロックダウン等の影響を受け、多くの地区での活動が制限されました。

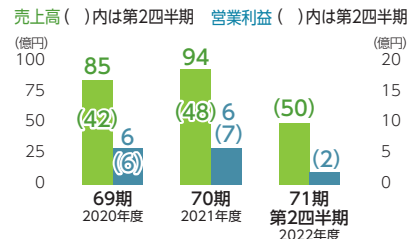
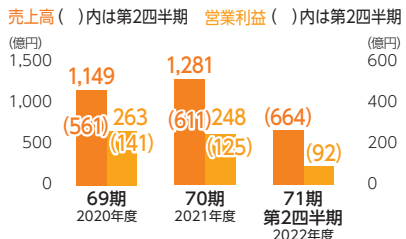
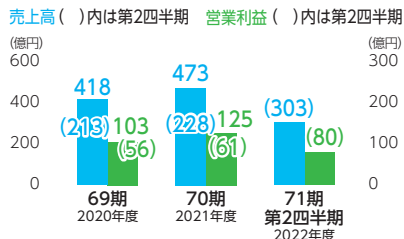
ヨーロッパ地域

売上高 **50** 億円 (前年同期比: 4.1% ↑)

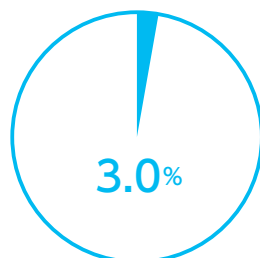
ヨーロッパ地域においては、乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などをオランダで製造し、同国を含め、ベルギー、イギリス、ドイツ、オーストリアおよびイタリアなどで販売しています。

ヨーロッパにおいては、プロバイオティクスを普及するための活動に対する厳しい規制の中で、健康強調表示(ヘルスクレーム)の承認に向けた各種の取り組みを行うほか、健康志向の高まりを契機とした各国での市場特性に合った販売活動の展開により、持続的成長を目指しました。

一方、ロシア・ウクライナ問題の長期化に伴い、当社は、両国内で事業展開をしていないものの、引き続きヨーロッパ地域全体への影響について注視していきます。



医薬品製造販売事業部門



売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高

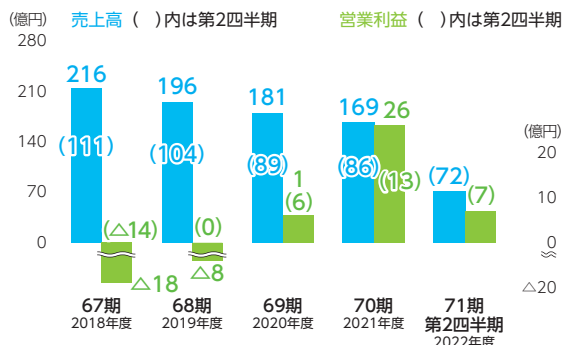
72 億円

(前年同期比：16.1% ↓)

営業利益

7 億円

(前年同期比：45.2% ↓)



医薬品につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、多くの施設で医療従事者に対して直接の面談ができない状況が継続しています。その対応として、ウェブ会議やウェブ講演会等により、がんおよびその周辺領域に特化した当社製品等の啓発活動や適正使用を推奨する活動を推進しました。

当社の主力製品である抗悪性腫瘍剤「エルプラット」については、行政方針に沿って後発医薬品へ切り替える医療機関が増加傾向にあるものの、先発医薬品を開発した当社の強みである情報提供力を活かした活動を展開しました。

しかしながら、4月に実施された薬価改定において大半の当社製品の薬価が引き下げられたことにより、売り上げに影響

受けました。

なお、日本セルヴィエ社と抗悪性腫瘍剤「オニバイド®」に関して締結していたプロモーション契約については、同社の事業戦略の変更のため、9月30日で終了しました。

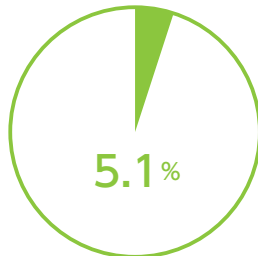
一方、研究開発においては、45C社(ドイツ)から導入しているHDAC阻害剤「レスミノスタット」等の開発品目の臨床開発を推進しました。

なお、「デュベリシブ」については、再発または難治性の慢性リンパ性白血病／小リンパ球性リンパ腫に係る製造販売承認を申請していましたが、規制当局との協議を踏まえ、9月28日に本申請の取り下げを行いました。

インターナルカーボンプライシング制度を導入

当社では、2021年に「ヤクルトグループ環境ビジョン」を策定し、2050年のあるべき姿として「環境ビジョン2050」を定め、「温室効果ガス排出量ネットゼロ(スコープ1・2・3)」を目標に掲げています。目標達成を目指し、2022年10月から「インターナルカーボンプライシング(ICP)制度」を導入しました。これはCO₂排出量を仮想的に費用換算することで、CO₂排出量削減に向けた経済的な社内インセンティブを創出し、低炭素投資や気候変動対策を推進する仕組みで、今後、設備投資を行う際の機器選定における判断基準の一つとして活用し、CO₂排出量削減に向けた取り組みを加速してまいります。

その他事業部門



売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高

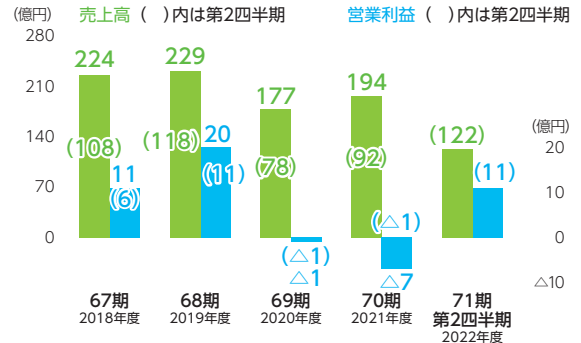
122 億円

(前年同期比：32.4% ↑)

営業利益

11 億円

(前年同期比： - ↑)



その他事業部門には、化粧品の製造販売およびプロ野球興行などがあります。

化粧品につきましては、当社が創業以来培ってきた乳酸菌研究から生まれたオリジナル保湿成分「S.E.(シロタエッセンス)」の「価値普及」活動に重点をおき、お客さまの「内外美容」の実現と化粧品愛用者数の増大に努めました。

具体的には、高機能基礎化粧品「パラビオ」シリーズのブランド活性化策を実施し、継続愛用の促進を図りました。また、7月に保湿効果の高い基礎化粧品「ラクトデュウ」シリーズから「ラクトデュウ S.E.ローション(ミルクミニボトル付き)」を数量限定で発売し、新たなお客さまとの接点拡大に努めました。さらに、薬用歯みがき剤「ヤクルト 薬用アパコート S.E.〈ナノテク

ロジー〉」等を対象商品とした販売促進策を展開し、売り上げの増大を図りました。

一方、プロ野球興行につきましては、ファンの方々のご声援を受け、東京ヤクルトスワローズが2年連続でセントラル・リーグ優勝を果たすことができました。また、各種ファンサービスの実施やさまざまな情報発信を行い、入場者数および売り上げの増大に努めました。

「サステナビリティレポート2022」「ヤクルトサステナビリティストーリーズ2022」を公開

当社ホームページでは、投資家をはじめ、当グループに関心をお持ちの皆さまに情報を提供するツールとして、2021年度のサステナビリティ活動の取り組みや定量データをまとめた年次報告書「サステナビリティレポート2022」を公開しています。また、「ヤクルトサステナビリティストーリーズ2022」では、一般生活者の方にも広く読んでいただけるよう、イラストや写真を多く用いてわかりやすくサステナビリティ活動を紹介しています。



第2四半期連結貸借対照表

単位：億円

科目	第70期 2022年3月31日現在	第71期第2四半期 2022年9月30日現在
資産の部		
流動資産	3,003	3,438
固定資産	3,724	4,016
有形固定資産	2,111	2,277
無形固定資産	53	56
投資その他の資産	1,559	1,682
資産合計	6,728	7,454
負債の部		
流動負債	892	1,020
固定負債	986	1,005
負債合計	1,879	2,025
純資産の部		
株主資本	4,541	4,574
資本金	311	311
資本剰余金	411	411
利益剰余金	4,463	4,675
自己株式	△ 643	△ 823
その他の包括利益累計額	△ 81	370
その他有価証券評価差額金	183	195
為替換算調整勘定	△ 240	196
退職給付に係る調整累計額	△ 23	△ 22
非支配株主持分	388	483
純資産合計	4,849	5,428
負債・純資産合計	6,728	7,454

第2四半期連結損益計算書

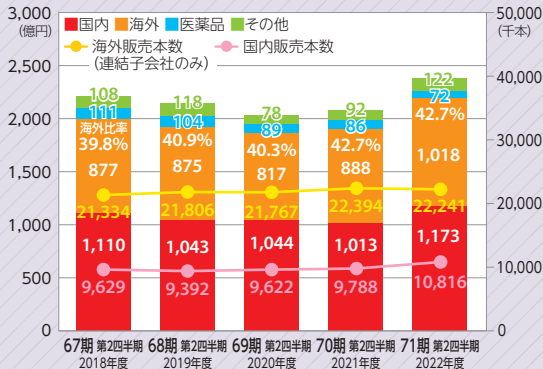
単位：億円

科目	第70期第2四半期累計 2021年4月1日から 2021年9月30日まで	第71期第2四半期累計 2022年4月1日から 2022年9月30日まで
売上高	2,029	2,327
売上原価	803	914
売上総利益	1,225	1,413
販売費及び一般管理費	947	1,060
営業利益	278	352
営業外収益	85	74
受取利息	15	23
受取配当金	10	10
持分法による投資利益	40	21
その他	18	18
営業外費用	6	7
支払利息	3	3
その他	2	3
経常利益	357	419
特別利益	24	4
固定資産売却益	0	4
投資有価証券売却益	11	0
段階取得に係る差益	11	—
その他	—	0
特別損失	10	1
固定資産売却損	9	0
固定資産除却損	0	1
その他	0	0
税金等調整前四半期純利益	371	422
法人税等	94	129
四半期純利益	276	293
非支配株主に帰属する四半期純利益	21	24
親会社株主に帰属する四半期純利益	255	269

第71期第2四半期のポイント

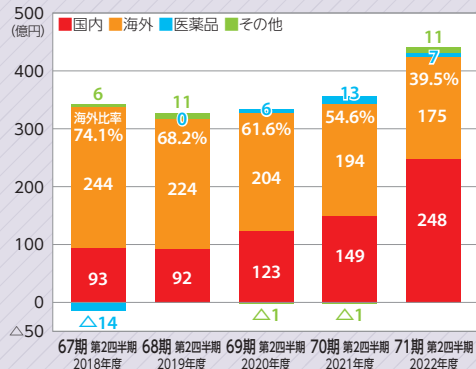
1. 全体(増収・増益)
2. 国内飲料(増収・増益)
 - Yakult1000等の販売数量増により、増収・増益
3. 海外飲料(増収・減益)
 - 販売数量はほぼ前年並み、円安効果により増収
 - 経費増および原材料高騰により減益
4. 医薬品(減収・減益)
 - 薬価改定の影響等により減収・減益

◆ 売上高推移および販売本数(連結)



(注) セグメント間売上高の消去前金額で表示しています。

◆ 営業利益推移(連結)



(注) 全社費用等の調整前金額で表示しています。

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書 単位: 億円

科目	第70期第2四半期累計 2021年4月1日から 2021年9月30日まで	第71期第2四半期累計 2022年4月1日から 2022年9月30日まで
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	303	323
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 35	△ 79
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 216	△ 280
現金及び現金同等物に係る換算差額	75	211
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	127	175
現金及び現金同等物の期首残高	1,227	1,507
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,355	1,682

キャッシュ・フローのポイント

- ① 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が前年同期と比較し51億円増加の422億円となった一方で、国内の売上増に伴う売上債権およびたな卸資産の増加等により、前年同期と比較し19億円の増加となりました。その結果、営業活動によるキャッシュ・フローは323億円となりました。
- ② 投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比較し投資有価証券の売却による収入が減少したこと等により、支出額が44億円増加しました。その結果、投資活動によるキャッシュ・フローは△79億円となりました。
- ③ 財務活動によるキャッシュ・フローは、主に短期借入金の返済が減少した一方で、自己株式の取得による支出等により支出額が63億円増加しました。その結果、財務活動によるキャッシュ・フローは△280億円となりました。

★より詳細な財務情報は、当社ホームページの「IR情報」で各種資料がご覧いただけます。

<https://www.yakult.co.jp/company/ir/>

ヤクルト IR情報

検索

「Newヤクルト」ってどうやってつくられるの？

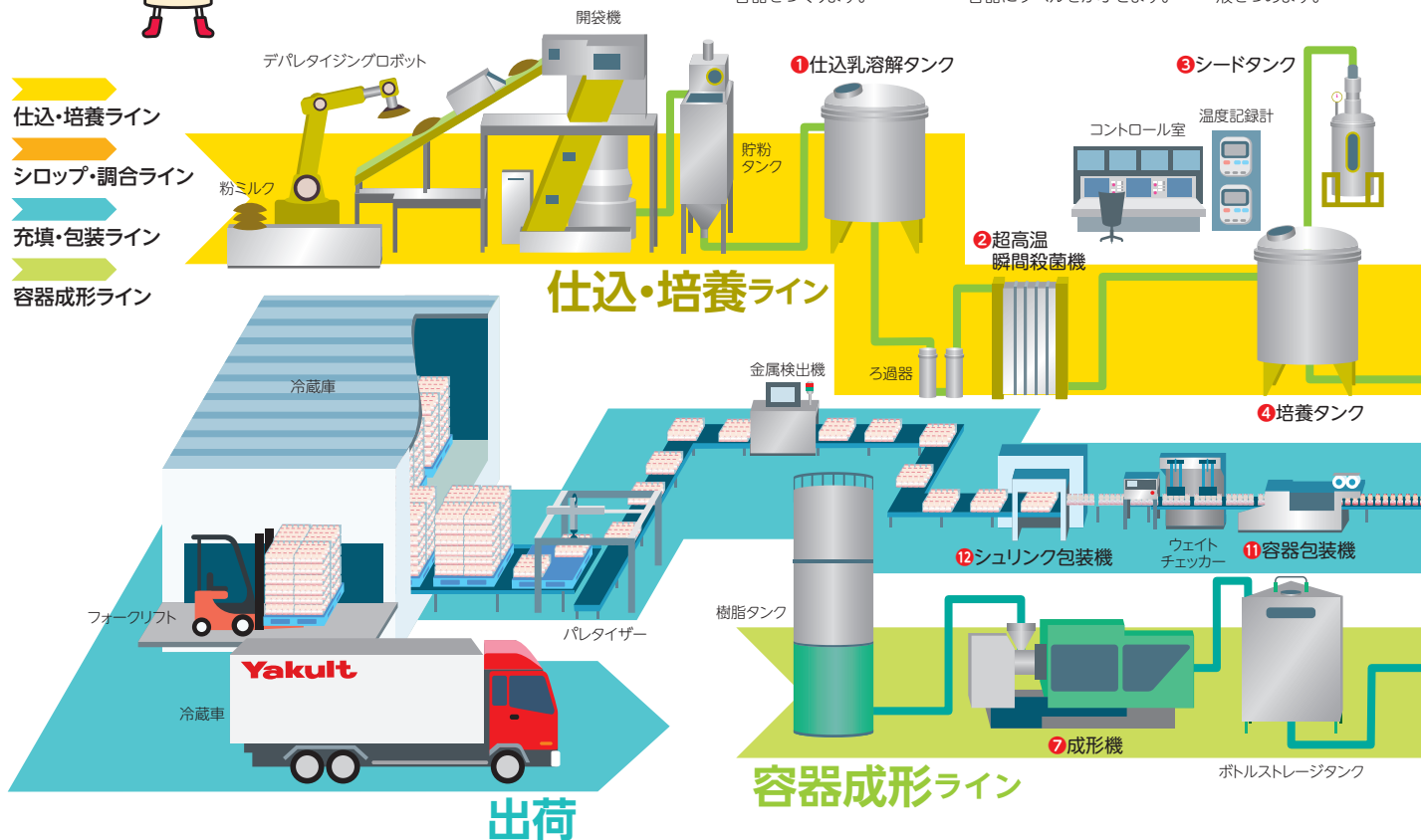
ヤクルトマンが
生産工程を
ご案内します

健康意識の高まりとともに、弊社乳酸菌飲料への関心も高まっています。それに伴い「ヤクルト工場をぜひ見学したい」とのご要望も大きくなっています。そこで、この特集では「誌上工場見学」として、弊社乳製品の生産工程をご案内します。



原材料の仕込みから出荷までの
一貫した生産システムについて
順番に見ていこう！

- ①仕込乳溶解タンク
粉ミルクをお湯でとがして
ミルクにします。
- ②超高温瞬間殺菌機
ミルクを殺菌します。
- ③シードタンク
製品に使う乳酸菌を
育てています。
- ⑦成形機
容器をつくります。
- ⑧ラベラー
容器にラベルをかぶせます。
- ⑨充填機
液をつめます。



※上記はヤクルト類の製造工程です。
※ヤクルト類については、原料液とボトルリングの2つの工場で製造する製品があります。



全国工場の見学について

新型コロナウイルス等の感染拡大防止のため、当面の間、現地での工場見学は中止させていただいております。再開が決まりましたら、弊社ホームページにてお知らせいたします。

国内乳製品工場



4 培養タンク

乳酸菌で発酵し、はち酵液をつくります。

5 シロップタンク

シロップ液をつくります。

6 調合・ストレージタンク

はち酵液とシロップ液を混合して原料液のできあがり。

10 キャップシーラー

キャップをします。

11 容器包装機

決められた本数単位で包装します。

12 シュリンク包装機

運びやすいように、商品を決められたパック数で包装します。

知ってますか？



「Newヤクルト」をつくるには

「Newヤクルト」は、生きて腸内まで到達する「乳酸菌 シロタ株」を、1本（65ml）に200億個含んだ乳製品乳酸菌飲料です。「Newヤクルト」の原材料である脱脂粉乳、糖類、香料、包装資材などを供給していただいているサプライヤーの皆さまに支えられて、製造しています。

「Newヤクルト」製造に関わる一次サプライヤー

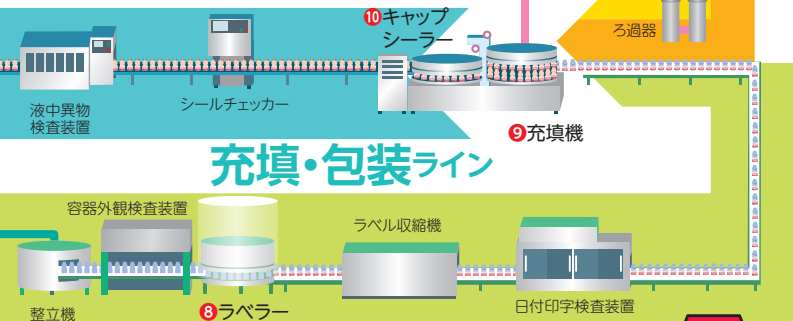
45社

(2021年10月時点)

多くのサプライヤーに支えられてできているんだ！



充填・包装ライン



全国各地のヤクルト工場では、ISOにもとづいた徹底した品質および衛生管理を行っています！



内容液

- ★ぶどう糖果糖液糖
- ★砂糖
- ★脱脂粉乳
- ★香料

キャップ

- ★アルミニウム

容器・ラベル

- ★ポリスチレン



お客さまに「健康」をお届けする会社として、
「健康経営」を推進し、
健康でいきいきした会社をめざしています。

●「健康経営」とは？

健康経営とは、従業員の健康保持・増進に取り組むことが将来的に収益性を高めることにつながる投資であるとの考えのもと、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践するものです。



●ヤクルトの「健康経営」とは？

ヤクルトでは上記の考えのもと、2017年に「**健康宣言**」を策定し、健康経営を推進しています。

健康経営推進のための課題を明らかにするため、2019年から「**健康に関する実態把握調査**」をヤクルト本社全従業員に対し実施しています。調査内容から浮かびあがった課題への対策をさらに推進していくため、2020年には人事部内に「**健康経営推進課**」を新設しました。現在は、従業員一人ひとりの健康意識向上のため、さまざまな対策を講じています。

ヤクルト「健康宣言」

ヤクルトは、「人々の健康に貢献する」という理念の実現には従業員の健康が不可欠であるとの認識に立ち、従業員の心身の健康保持・増進および安全・安心な職場環境づくりに努めます。

ヤクルト本社の主な取り組みをご紹介します。

「ヤクルトストレッチ」 の導入 (2020年～)

ヤクルトオリジナルの職場体操



「メンタルヘルス対策」

社内外相談窓口・健康推進担当者の設置
ストレスチェックおよび集団分析のフィードバック



WEB健康講座の実施 (2021年～)

従業員の健康意識・リテラシーの向上



「女性のための巡回がん検診」 の実施 (2018年～)

乳がん・子宮がんの早期発見



これらの積極的な取り組みが評価されて

「健康経営優良法人(ホワイト500)」に 5年連続(2018年～)で認定されています。

経済産業省と日本健康会議が共同で、大規模法人のうち、保険者と連携して優良な健康経営を実践している法人を「健康経営優良法人(大規模法人部門)」として認定する制度です。認定された企業の中で上位500社が、「ホワイト500」に認定されます。



グループ会社も「健康経営」に取り組んでいます

本社だけでなく、複数のグループ会社も健康経営優良法人に認定されています。そのうち3社の取り組みを紹介します。

千葉県ヤクルト販売(株) ホワイト500

当社で働くことの「誇り」と「やりがい」の向上、そして「従事者の幸せ」を目指しています。

- ★外部EAPによるメンタルヘルス対策
- ★全社員対象の「健康研修会」の実施
- ★各種禁煙施策の実施 等

名古屋ヤクルト販売(株) 大規模法人部門

- ★ヘルスサポート委員会を設置し、毎月管理栄養士による「ヘルスサポート通信」等の発行を通じて情報発信
- ★禁煙デーの設定や喫煙者に対する情報提供活動
- ★希望者へ「女性のがん検診」を実施 等

(株)岡山和気ヤクルト工場 中小規模法人部門

- ★異なる勤務体制に合わせた健診方法の工夫
- ★社員食堂で提供する食事内容(栄養成分・カロリー等)に関する情報提供
- ★体組成計・血圧計等を設置 等

これからも従事者の健康保持・増進のため、さまざまな取り組みを積極的に推進し、さらなる企業価値の向上をめざします

現在、日本を含む40の国と地域で、
主として乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」の製造・販売を行っており、
世界中で毎日4,100万人を超える方々(2022年3月期実績)にご愛飲いただいています。

【世界の販売本数】



海外：2022年1月～6月の1日当たり平均本数
日本：2022年4月～9月の1日当たり平均本数

EUROPE

▶国と地域：13 
▶1日当たりの販売本数：69万本

ヨーロッパ

- オランダ
- ベルギー
- フランス
- イギリス
- ドイツ
- ルクセンブルク
- スペイン
- アイルランド
- オーストリア
- イタリア
- マルタ
- スイス
- デンマーク

THE AMERICAS

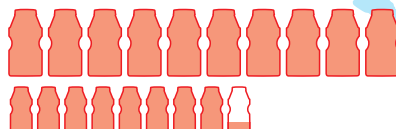
▶国と地域：6 
▶1日当たりの販売本数：581万本 

米州

- ブラジル
- アメリカ
- メキシコ
- カナダ
- ウルグアイ
- ペリーズ

JAPAN

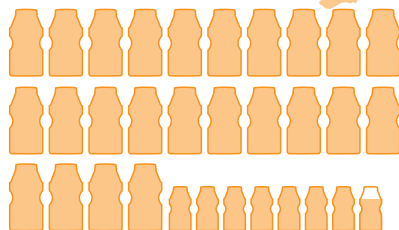
日本 ▶1日当たりの販売本数：1,082万本



ASIA AND OCEANIA

アジア・オセアニア

▶国と地域：20
▶1日当たりの販売本数：2,477万本



- 台湾
- マレーシア
- 香港
- ニュージーランド
- タイ
- ベトナム
- 韓国
- インド
- フィリピン
- アラブ首長国連邦
- シンガポール
- オマーン
- ブルネイ
- バーレーン
- インドネシア
- カタール
- オーストラリア
- クウェート
- 中国
- ミャンマー

会社概要

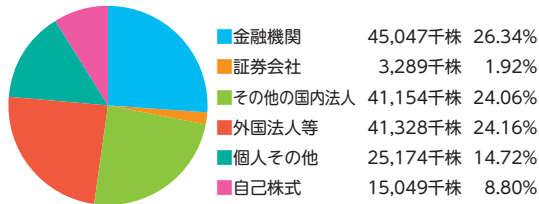
商号 株式会社ヤクルト本社
(Yakult Honsha Co., Ltd.)
設立 1955年4月9日
本店 東京都港区海岸1丁目10番30号
電話 03(6625)8960(大代表)
資本金 311億17百万円
従業員 2,859人

(注) 上記従業員数には、関係会社等への出向者298人および嘱託173人を含んでいます。

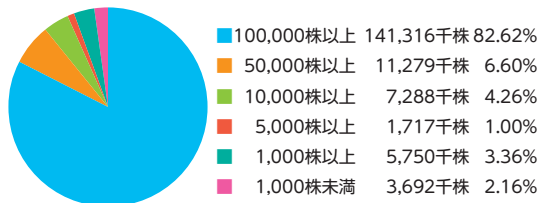
株式の状況

発行可能株式総数…………… 700,000,000株
発行済株式総数…………… 171,045,418株
株主数…………… 31,951名

所有者別分布状況



所有株式数別分布状況



役員

代表取締役社長 成田 裕 取締役 平野 宏一 常勤監査役 山上 博資
取締役 若林 宏 社外取締役 安田 隆二 常勤監査役 川名 秀幸
取締役 石川 文保 社外取締役 戸部 直子 社外監査役 谷川 清十郎
取締役 土井 明文 社外取締役 新保 克芳 社外監査役 手塚 仙夫
取締役 林田 哲哉 社外取締役 永沢 裕美子 社外監査役 町田 恵美
取締役 平野 晋 社外取締役 阿久津 聡 *非常勤
取締役 今田 正男 取締役 内藤 学
取締役 伊藤 正徳

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	23,076	13.49
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	7,030	4.11
株式会社フジ・メディア・ホールディングス	6,492	3.80
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口	4,957	2.90
共進会	3,861	2.26
松尚株式会社	3,417	2.00
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー 505234	2,542	1.49
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	1,774	1.04
ジェーピー モルガン チェース バンク 385781	1,750	1.02
日本生命保険相互会社	1,696	0.99

(注) 共進会は、当社の取引先であるヤクルト販売会社を会員とする持株会です。上表のほか、当社は自己株式15,049千株を保有しています。

ホームページのご紹介

当社のホームページでは、会社情報、IR情報、商品情報、CSR活動などさまざまな最新情報を掲載しております。特に株主・投資家の皆さまに向けましては、トップメッセージ、決算短信、有価証券報告書のほかIRニュースなども掲載しております。ぜひご覧ください。



<https://www.yakult.co.jp/>

株主優待

毎年3月31日現在で100株以上ご所有の株主さま
当社商品詰め合わせを贈呈

- ※1,000株以上ご所有の株主さまは商品内容が異なります。
- ※ご所有期間3年以上の株主さまは「化粧品」を追加で贈呈します。
- ※商品発送は、6月上旬の予定です。

毎年9月30日現在で100株以上ご所有の株主さま
**東京ヤクルトスワローズ
オフィシャルファンクラブ(スワローズクルー)に
無料でご入会いただける権利をご提供**

- ※ご所有株数によってご入会いただける会員種別が異なります。
- ※入会についてのご案内は、本誌と同封しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
株主総会	定時株主総会 毎年6月中 臨時株主総会 必要に応じ随時
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日

公告掲載方法 電子公告 <https://www.yakult.co.jp/>
ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 東京証券代行株式会社
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町三丁目11番地
(NMF竹橋ビル6F)

(郵便物送付先)
連絡先 〒168-8522
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
東京証券代行株式会社 事務センター
☎0120-49-7009

株式に関するお手続きについて

1. 未支払配当金のお支払い
株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。
2. 住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定など
お取引の証券会社等にお申し出ください。なお、特別口座に記録された株式の手続き(証券会社に開設した口座への振替など)に関しましては、すべて当社の特別口座管理機関である東京証券代行株式会社にお問い合わせください。

会社法改正により、2023年以降の株主総会から、事業報告および計算書類等の株主総会資料のご提供方法が、原則ウェブ化されます(議決権行使書、配当金・株主優待等のご案内は、従来どおり紙面でお送りいたします)。

事業報告および計算書類等の株主総会資料の紙面での送付をご希望の株主さまは、同封のリーフレット(オレンジ色)の裏面の内容をご確認のうえ、お手続きください。

Yakult

株式会社ヤクルト本社

証券コード2267

東京都港区海岸1丁目10番30号

TEL: 03-6625-8960(大代表)

<https://www.yakult.co.jp/>

